

近代の肖像

危機を拓く

第504回

「SENSEI」

小樽商科大学教授

荻野 富士夫

角田は「日本の歴史と問題」はゼミ的授業と「文学」を担当する。西洋文明と接触をもった日本た。受講者も増えてきたため、1938年から「平安文学を読みたい者」を用いた。その後、「聖徳太子から復古神道まで」

戦時中も教壇に立ち続ける

1931年3月、コロンビア大学は「日本文学」設立と同時に、日本語と日本文学部門の創設を表明し、「図書部主事」の角田柳作をその講師に任命する。東洋研究においてヨーロッパに比べて後れをとったアメリカでは、まず中国が対象になり、1930年頃から日本が対象になってきた。コロンビア大学でも中国

31年9月からの新学期

角田 柳作

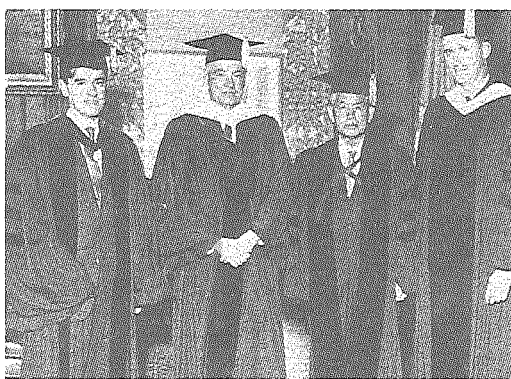
②

3月24日に釈放され、再び教壇に立つ。毎年4、

日米開戦直後に拘留も3カ月で釈放

「日本の文化史」として「日本思想史」「日本書誌」なども担当する。本人の思想展開があつかわれた。次第に日本関係の授業科目も増え、角田の担当する「日本史の諸者の奔走が実って翌42年

5科目を担当するようになり、実質的に日本研究・教育の主力となった。復員後、大学院に戻ったキーンさんらの求めで毎日2時間以上の「日本古典文学」の授業も行う。『平安文学を読みたい者』を測される。「SENSEI」といえば、それは角田を指した。キーンさん



1962年、角田柳作はコロンビア大学から名譽文学博士号を授与された(右から2番目)。写真提供は、角田柳作の孫、コロンビア大学C.V.スター

「美しいもの、敬ぶりを」にたいする感に、復員後、大学院に戻ったキーンさんらの求めで毎日2時間以上の「日本古典文学」の授業も行う。『平安文学を読みたい者』を測される。「SENSEI」といえば、それは角田を指した。キーンさん

「美しいもの、敬ぶりを」にたいする感に、復員後、大学院に戻ったキーンさんらの求めで毎日2時間以上の「日本古典文学」の授業も行う。『平安文学を読みたい者』を測される。「SENSEI」といえば、それは角田を指した。キーンさん

53年、76歳の時だったが、キーンさんの休暇時には85歳という高齢で「古典文学読解」や「明治文学」を引き受けている。62年、コロンビア大学から「名譽文学博士号」が授与された。

キーンさんはコロンビア大学の「日本学」の特徵について、角田の影響下に形成されたとして、それは文献だけでなく「想像力をも重視する人文学」「日本の独特の文化の重要性を十分認める学問」と語る。角田自身はその深い教養と学識にもかかわらず、常に自らを学びつづけるものとしたため、著作や論文を執筆することに熱心ではなかった。